

「落花生」生育情報（第3報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。

調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を予測するものではありません。

令和8年9月11日
千葉県農林水産部
生産振興課

1 生育状況

7月中旬から8月上旬には降雨がほとんどなく、ほ場が干ばつ状態となりました。

「令和8年8月千葉豪雨」のあった8月中旬以降、日照時間がやや短く推移しました。

高温傾向だった令和4年から令和7年までと比較して、生育が遅れていることから、生莢重、乾燥さや実重は小さくなっています。また、着莢から莢の充実期がかん水不足により干ばつとなったほ場（5月中旬から6月中旬は種）では、子実肥大に影響があり、未熟粒の発生や空さやの発生が見られました。

表1 作況調査成績（9月1日調査）

品 種 名	年次	は種日	開花期	さや実数 (個/㎡)		生 さや実重 (g/㎡)	乾燥 さや実重 (g/㎡)	未熟粒 歩合 (%)
				総さや数	(うち) 上さや数			
千葉半立	本年	5/28	7/8	199	65	717	130	10.0
	平年	5/29	7/7	189	95	647	171	5.4
				(105)	(68)	(111)	(76)	+4.6
ナカテユタカ	本年	5/28	7/6	265	115	830	245	9.0
	平年	5/21	6/29	247	170	833	327	2.0
				(107)	(68)	(100)	(75)	+7.0
Qなつつ	本年	5/25	7/6	261	117	923	242	1.7
	平年	6/1	7/7	229	149	815	262	3.0
				(114)	(79)	(113)	(92)	-1.3
おおまさり ネオ	本年	5/27	7/6	207	56	981	170	9.3
	平年	5/21	6/30	263	53	1210	231	2.0
				(79)	(105)	(81)	(74)	+7.3

※本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取・山武地区、「ナカテユタカ」は千葉・海匝・長生地区、「Qなつつ」は印旛・香取・長生地区、「おおまさりネオ」は千葉・印旛・君津地区。

※平年値は、ほ場変更等がない限りは過去7年間（「千葉半立」、「ナカテユタカ」、「Qなつつ」）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「おおまさりネオ」は過去5年間の平均値。

※カッコ内は平年値に対する比。ラウンド処理をした値。

※開花期は、1輪でも花が咲き始めた株がほ場全体の50%に達した日。

※未熟粒歩合は、上さやに含まれる子実のうち、成熟不良な子実の割合。

表 2 落花生研究室（八街市）の作況（9月1日調査）

は種日	品 種 名	開花期	莢実数（個/㎡）		生 莢実重 （g/㎡）	乾燥 莢実重 （g/㎡）	未熟粒 歩合 （%）	収穫期 目安
			総莢数	（うち） 上莢数				
5月20日 （標播）	千葉半立	7/3 （+4）	284 （ 82%）	55 （ 44%）	819 （ 74%）	119 （ 48%）	28.0 （+23.6）	10/6 （+4）
	ナカテユタカ	7/1 （+4）	297 （ 77%）	86 （ 43%）	927 （ 82%）	197 （ 54%）	16.0 （+10.6）	9/19 （+4）
	Qなつつ	7/3 （+4）	228 （ 62%）	79 （ 47%）	757 （ 70%）	167 （ 53%）	15.0 （+12.6）	9/21 （+4）
	おおまさりネオ	7/1 （+3）	244 （ 60%）	13 （ 39%）	987 （ 60%）	118 （ 43%）	3.3 （-1.3）	9/29 （+3）
6月11日 （晩播）	千葉半立	7/15 （+2）	173 （ 64%）	42 （ 38%）	516 （ 55%）	76 （ 38%）	15.0 （+12.2）	10/18 （+2）
	ナカテユタカ	7/15 （+5）	262 （ 84%）	69 （ 37%）	803 （ 76%）	143 （ 45%）	9.0 （+5.6）	10/3 （+5）
	Qなつつ	7/16 （+4）	232 （ 85%）	83 （ 50%）	813 （ 88%）	158 （ 57%）	7.0 （+4.8）	10/4 （+4）
	おおまさりネオ	7/15 （+4）	198 （ 64%）	7 （ 29%）	643 （ 51%）	76 （ 36%）	7.1 （+4.8）	10/8 （+4）

*栽培密度は5,128株/10a、無かん水条件
*カッコ内は、令和3～令和7年の平均値に対する差、又は比
*未熟粒歩合は、上さやに含まれる子実のうち、成熟不良な子実の割合
*収穫期の目安は、開花期後の標準日数（全て煎莢用）で算出

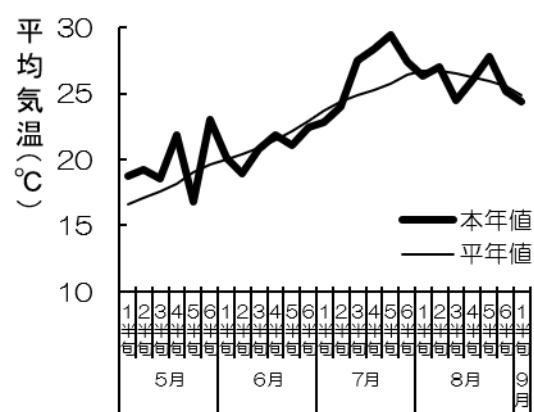


図1 半旬別平均気温(アメダス佐倉)

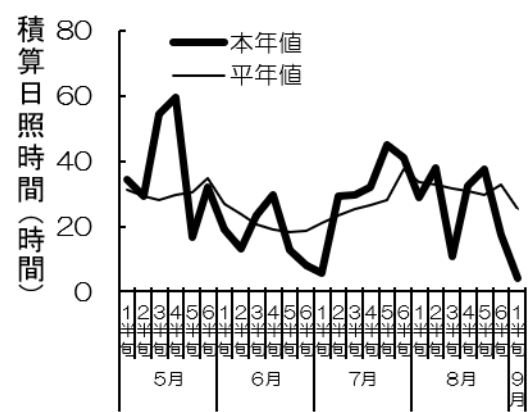


図2 半旬日照時間(アメダス佐倉)

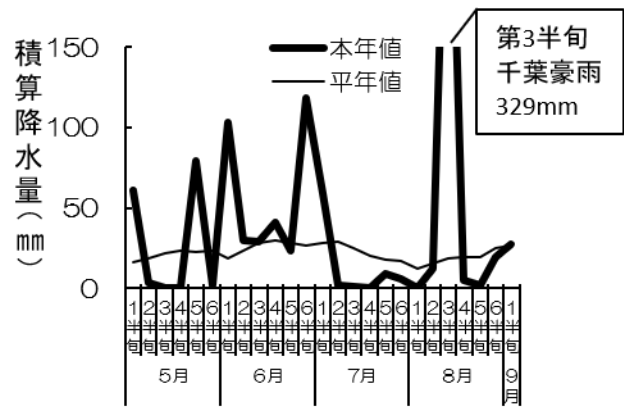


図3 半旬別降水量(アメダス佐倉)

2 これからの管理のポイント

(1) 白絹病の防除

8月中旬の降雨によりほ場が多湿となり、ほ場によっては白絹病が発生しています。今後は平年より高温傾向が予想されますので、薬剤散布だけでは十分な効果が望めない場合は、罹病株を株元の土ごと除去し、被害の拡大を防止しましょう。

薬剤の使用に当たっては、収穫前使用日数に注意しましょう。薬剤散布は、農薬のラベルに記載された使用基準に従い行ってください。

表3 防除薬剤

適用薬剤名	希釈倍数等	使用時期／回数
アフエットフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで／3回

(2) 「試し掘り」で適期収穫

落花生の掘取時期の目安は、下表のとおりです。

近年に比べて今年は生育が遅い傾向のため、必ず試し掘りをして、適期に収穫しましょう。砂地の地域では、表4よりも収穫時期が早まることがあるので、早めに試し掘りをしてください。

掘り遅れた場合、「ナカテユタカ」は食味が低下し、「Qなつつ」は落ち実が発生しやすくなるので、特に注意が必要です。

表4 開花期からの掘取時期の目安（平年的な気象条件の場合）

	千葉半立	ナカテユタカ	Qなつつ	おおまさりネオ
開花期からの掘取時期の目安	95日後	80日後	80日後	85日後 (ゆで豆用)

表5 落花生研究室（八街市・マルチ栽培）での収穫期目安（平年的な気象条件の場合）

品種	は種日	開花期	収穫期目安
千葉半立	5月10日 ^{*2}	6月24日	9月27日
	5月20日 ^{*1}	7月 3日	10月 6日
	5月30日 ^{*2}	7月 9日	10月12日
	6月11日 ^{*1}	7月15日	10月18日
	6月20日 ^{*2}	7月21日	10月24日
ナカテユタカ	5月10日 ^{*2}	6月21日	9月 9日
	5月20日 ^{*1}	7月 1日	9月19日
	5月30日 ^{*2}	7月 7日	9月25日
	6月11日 ^{*1}	7月15日	10月 3日
	6月20日 ^{*2}	7月20日	10月 8日
Qなっつ	5月10日 ^{*2}	6月23日	9月11日
	5月20日 ^{*1}	7月 3日	9月21日
	5月30日 ^{*2}	7月 9日	9月27日
	6月11日 ^{*1}	7月16日	10月 4日
	6月20日 ^{*2}	7月21日	10月 9日
おおまさりネオ	5月10日 ^{*2}	6月22日	9月15日
	5月20日 ^{*1}	7月 1日	9月24日
	5月30日 ^{*2}	7月 8日	10月 1日
	6月11日 ^{*1}	7月15日	10月 8日
	6月20日 ^{*2}	7月20日	10月13日

（ゆで莢用：85日）

*1：落花生研究室の作況調査ほ場における調査結果

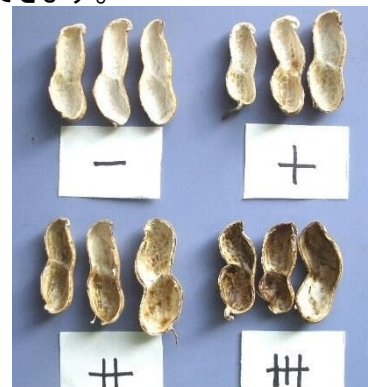
*2：令和5年度試験研究成果普及情報「気象データを活用した落花生の開花期予測モデルの開発」を活用し、アメダス佐倉の日平均気温を基に各は種日の開花期を予測して算出した

収穫適期判断法

「ナカテユタカ」及び「Qなっつ」は、さやの裏の色で収穫適期が判断できます。

＜方 法＞

- ①ほ場の中で生育が中庸な4株を掘り、それぞれの株もとのさやを5つとり、さやの裏の色を見ます。
- ②合計20個のさやのうち、その半数以上（11個以上）の色が淡褐色（写真＋）以上になり、黒褐色（写真＋＋＋）のさやがひとつでも見られたときが掘取りの適期です。
- ③開花期から予想される適期の7日前から、2、3日おきに試し掘りをして判定します。

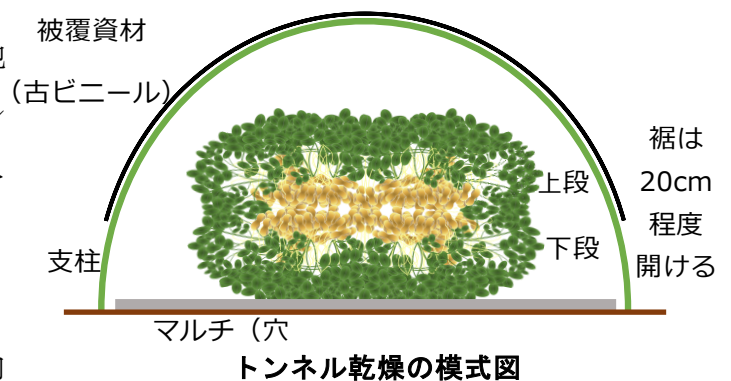


掘り取った落花生は、地干しの後、風通しの良い場所を選んで野積み(ぼっち積み)やトンネル乾燥を行い、さらに乾燥させます。

野積みは、湿気がこもらないように管理することが大切です。5～7日間の地干しの後、風通しの良い場所に小さく野積みし、頂部をブルーシートや稲わら等で覆い、雨をしっかりと防ぎましょう。透明ビニールシートは熱がこもりやすく、カビの発生要因となるため、使用しないでください。特に早い時期に収穫した品種は、茎葉が多く蒸れやすいため、注意が必要です。



トンネル乾燥は、収穫後3～7日程度地干しを行った後に、降雨の前に雨よけトンネルに入れて乾燥を行う方法です。カビを発生させることなく、野積みによる乾燥と同じ品質の落花生を得ることができます。トンネル内では、地干しした株のさやが内側になるよう上下2段で積み、2～3週間程度乾燥させます。



地干し後の乾燥方法は、収穫時期によって野積みとトンネル乾燥を使い分けると効果的です。9月は、気温が高く、カビ等による品質の低下を防ぐため、トンネル乾燥を、10月以

収穫時期	9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
降雨時の カビ発生リスク	大		中	小		
トンネル乾燥で の乾燥速度	早		中	遅 (朝露が原因)		
トンネル乾燥 適期						
ぼっち乾燥 適期						

降は、外気温が低下し、トンネル内に結露が発生して乾燥しにくくなるため野積みを推奨します。

〔農業用コンテナを用いた乾燥法〕

収穫後3～7日程度地干しを行い、さやの表面を十分乾燥させた後に脱莢し、農業用コンテナに入れて通風乾燥する方法です。1基で約5アール分のさや実（約190kg）を1週間で乾燥できます。電源や設置場所が必要となりますが、天候に左右されずにきれいで乾燥したさや実を得ることができます。詳しくは試験研究成果普及情報「農業用コンテナと除湿機を用いた落花生の安定的な乾燥法」（二次元コード）を参照してください。（<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/r6n10.pdf>）

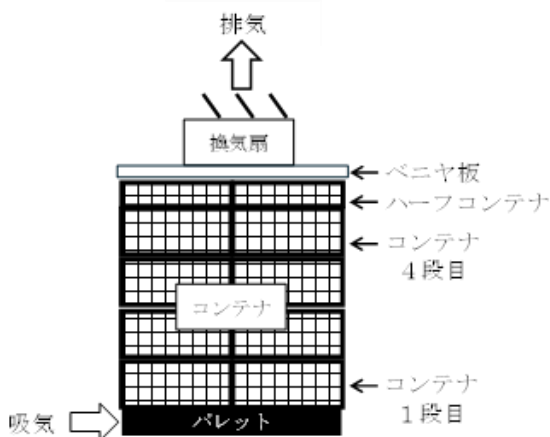


図1 コンテナ乾燥装置の模式図

- 注1) 吸気口、排気口以外の外周部分はビニールシート等で覆い外気を遮断する
- 2) 換気扇は台所用換気扇（最大静圧21Pa）。換気扇サイズの穴をあけたベニヤ板にはめ込み、コンテナ上に載せる。換気扇の羽とコンテナの接触を避けるため、4隅にハーフコンテナを設置する。
- 3) パレットは1100×1100×120mm
- 4) コンテナは一般的な農業用コンテナ
- 5) 約5アール分のさや実を乾燥できる



図2 簡易テントの設置状況

- 注1) ブルーシートで簡易テントを作り、内部にコンテナ乾燥装置と除湿機（DM-10、ナカトミ製）を設置した
- 2) 除湿機の除湿能力は21L/日（500w）。ブルーシートは5.6×3mでつなぎ目をクリップや養生テープで封じた。コンテナ乾燥装置は図1と同じ
- 3) 価格は、パレット1枚、換気扇1台、コンパネ1枚、除湿機1台で約70,000円。ブルーシート3枚、ハーフコンテナ4個、コンテナ24個で約70,000円

(4) 優良種子の確保

来年の落花生栽培のため、自家採種する種子を多めに確保し、発芽不良の原因となる幼芽褐変がないか、確認しておきましょう。

自家採種では、異型株・異型莢を除去するとともに、十分な乾燥により、カビを防ぎ、優良種子の確保に努めましょう。

また、自家採種を続けると品質や収量が低下する恐れがありますので、3～4年に1度、計画的に種子更新を行うことをお勧めします。

＜幼芽褐変の見分け方＞



健全種子



幼芽褐変 軽度
本葉が褐変
出芽率9割



幼芽褐変 中程度
胚軸上部が褐変
出芽率6割



幼芽褐変重症
本葉全部と胚軸上部が褐変
出芽率1割

(5) 「栽培管理記録簿」の記入

「栽培管理記録簿」は、生産者自身が栽培管理や使用した肥料や農薬散布の状況を記録し、栽培管理を点検することにより、生産性や品質の向上に役立つものになるとともに、それらを開示することで、千葉ブランド落花生の「安全・安心」を消費者へアピールすることにもつながります。

出荷時に集荷業者に速やかに提出できるよう、もう一度内容を確認し、自分の保存用に控えを用意しておきましょう。

(6) 台風対策

大雨時の冠水を防ぐため、栽培中だけでなく掘取後の乾燥中においても、明渠を掘る等、ほ場の排水対策を行いましょう。